

# 「探究と協同の学び合い学習」

～聴き合うことを基盤とした  
主体的・対話的で深い学びづくり～  
川口市立原町小学校研究発表会

＜本日のアウトライン＞

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領と学び合い学習 教育観(授業観・学力観)の転換

原町小学校授業改善プラン等より

学び合い学習について

大切にしていること 学びの環境を考える

具体的場面において ペア・グループ・コの字席・課題

令和4年1月25日

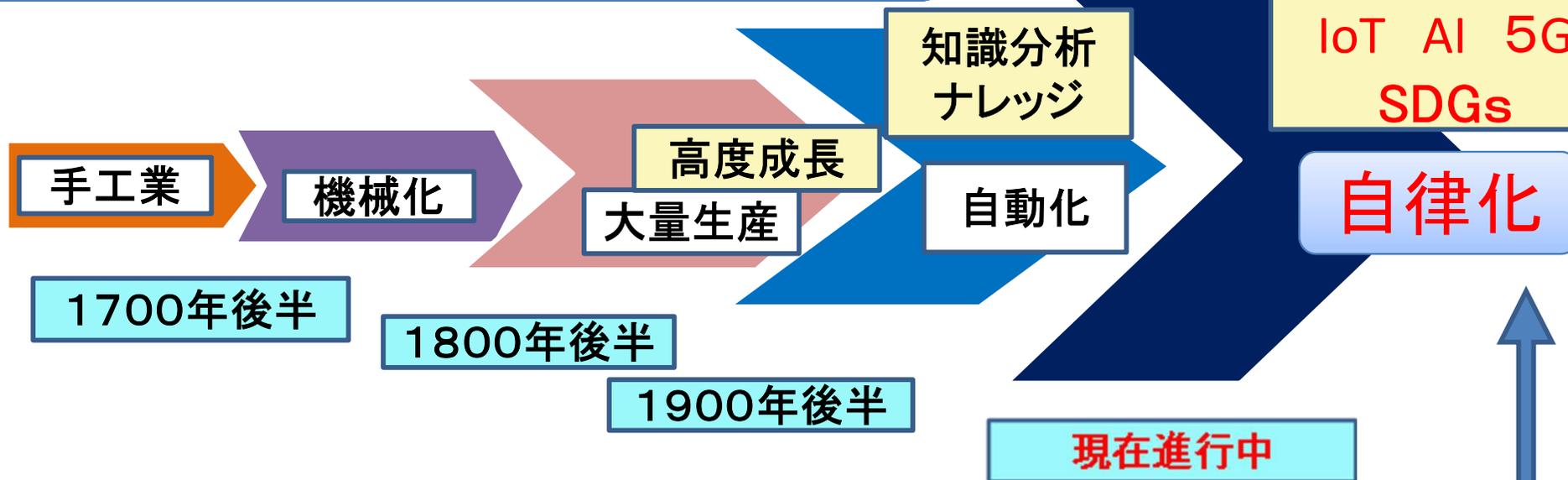
学びの共同体研究会スーパーバイザー

根岸康雄

# 「生きる力」<未来を生き抜くために>

**生きる力** 学びのその先へ  
平成31年度文科省

知識基盤社会  
グローバル化  
高度情報化  
IoT AI 5G  
SDGs



<ここに対応できる人材育成> ↔ <生きる力>

平成8年  
(1996)

下村文科大臣26. 11. 20

…自立した人間…他者と協働…未来を切り開いていく力…

中教審答申28. 12. 21

予測困難な時代…一人一人が未来の創り手…

# 加速する第4次産業革命

- 2020年段階で、すでに労働の29%が機械化(人工知能とロボット)されている。
- 2022年には金融業の20%、自動車産業で19%、小売業で17%、情報産業で18%、教育で14%、行政で14%、医療保険で11%の労働が機械化、2025年には労働の52%が機械化されると予測。(世界教育フォーラム)
- 対応として、2022年までの2年間ですべての労働者が101日分の学習が必要と報告している。(同報告書)
- 現在12歳の子どもたちが就く仕事の65%は、今存在しない仕事(現在より知的に高度な仕事)になる。(キャシー・デビッドソン氏)

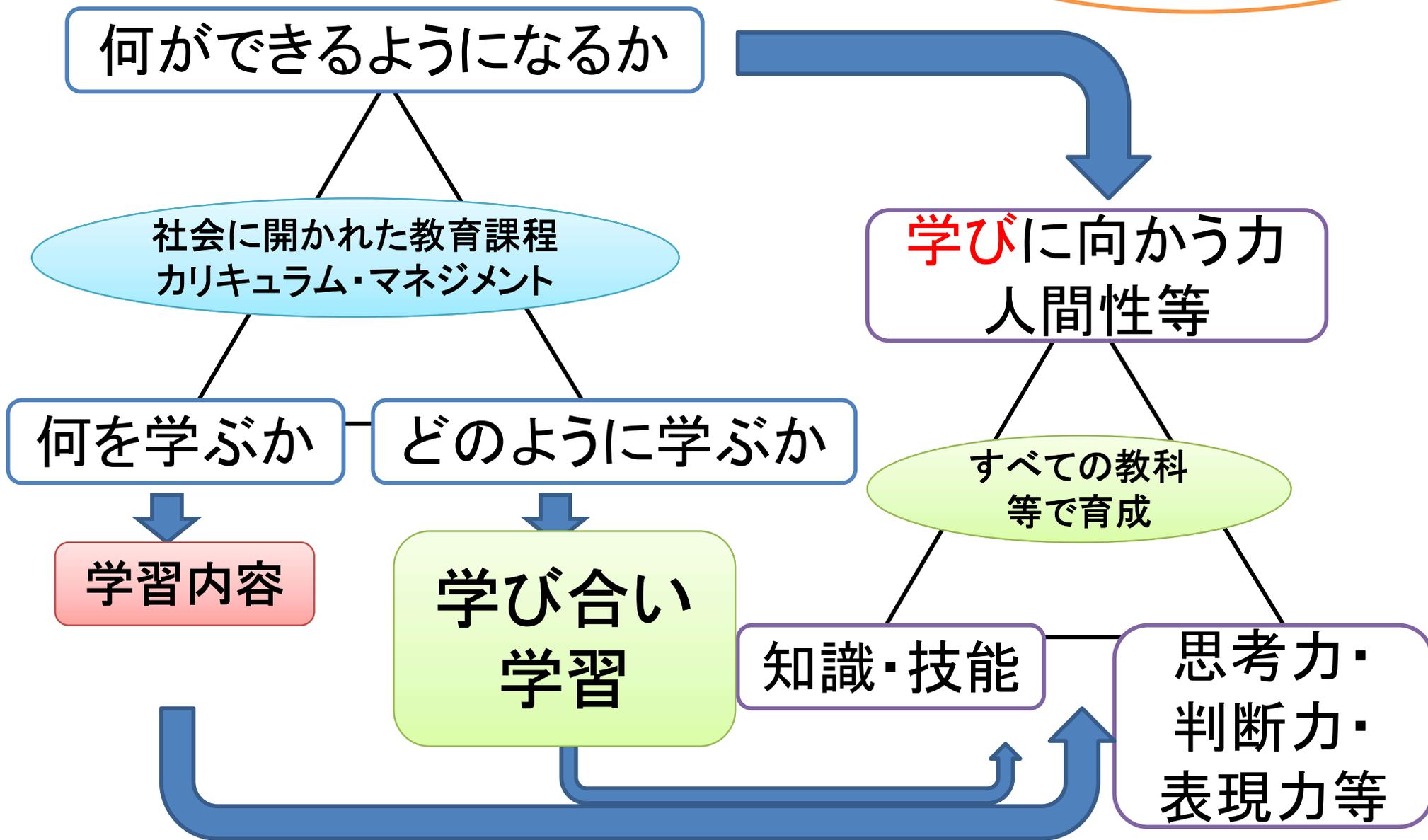
＜主体的・対話的で深い学びは、

この社会変化への対応＞

正解のない問い(新しい課題) ↔ 創造性・探究・協同

# 新学習指導要領より

主語が子供に



関連付けは根岸

# 「学び合い学習」が大切にしていること

- 子供達が**学び育ち合う**  
**一人残らず**学ぶ権利を保障(誰も独りにしない)  
質と平等の同時追及  
　　<**子供の尊厳**>
- 教育の**専門家**として学び育ち合う  
　　<学び続ける教師>
- **地域・保護者**の学習参加で育ち合う

- 公共性  
　　教室を開く  
　　<全員が研究授業>
- 民主主義  
　　子供も教師も保護者も  
　　**一人一人が主人公**  
　　固有名詞で語る
- 卓越性  
　　ベストを尽くす

居場所と学びがいのある  
安心感・平等感のある教室をつくろう  
しっとりとした こまやかな 微笑みある…

# 授業に対する意識変革

3つの対話が中核となり本質  
(新たな見方・考え方)に迫る

学ぶことは「何が本当  
なのか？」を問い続けること」  
学び方を学ぶ・プロセスから学ぶ

文化  
知識

先生  
知識

伝達

児童

教える人と教わる人  
今までの関係

対話

対話

参加

先生

子供

互惠関係 共に探究

子供

子供同士が対等な関係で、知恵を出し合い探究する  
～友の気づきが自分の気づきに～

正解を求める⇒プロセスを楽しむ

# 探究と協同の学び「どのように学ぶか」

## 主体的 ・ 対話的 で 深い学び

内発的動機付け  
探究の学び  
ジャンプの課題  
面白そうだ…  
やってみたい…

「聴き合う関係」  
協同の学び  
他者がいることで  
ここどうするの？  
こうかな……？  
教材・他者・自分

教材の価値に深く  
触れていく  
真正の学び  
根源的な学び  
教科の世界に没入  
プロセス  
教科する…

「探究」と「協同」の学びは、  
「教材の価値・聴き合う関係・ジャンプの課題」により成立し、  
結果として「主体的・対話的で深い学び」を成立させ、  
一人残らず学びを保障し、だれも独りにしない学びを実現させる

# 学び合いの中心＜聴き合う関係＞

## ①教材から聴く

丁寧さ 細やかさ・・・深い学び、面白さを生む

## ②仲間から聴く

聴き合う最小単位はペア

思考の多様さが学びの深さへ

## ③再び教材から聴く

新たな気づき・・・深い学びへ

これらは「しっとりとした教室」からしか生まれない

→「つぶやき」が交わされる教室・・・つぶやきは考える言葉

→「つぶやき」が聴こえる教室・・・安心の空間・・・誰の言葉も大切にされている

→大きな声が支配する教室は小さな声がつぶされる

# 原町小学校授業改善プラン等より

## ＜改善プランより＞

- 学び合いの成立要件の研究
- 研究主題と仮説の設定

自校の学びの定義

- 具体的実践

系統性を踏まえた

聴き合う段階表

真正の学びとは

わからないとは

型から入り、型を乗り越える

学級の姿段階表

＜目指す姿を明確にして、  
教師も学び合い最上を目指す＞

同僚性、卓越性、日常化、  
学びへの意識変革 児童の心の変容  
児童の成長を喜び合う教師集団

## ＜授業デザイン(指導案)より＞

国語

教材との対話

音読(一番考えた、心を動かされた)

深く読む(ジャンプ)

算数

分数の意味理解と小数とのつながり

探究的学びを組織

ジャンプの課題を通し振り返る

社会

人間の営みと関連付け考える学び

追究をベースに見取りとケア

資料から問いをつくり追究(ストーリー)

## ＜研究資料より＞

自ら学び、共に学び合う児童の育成

ビジョンと理念の共有

誰一人取り残さない学びづくり

安心感の教室 粘り強さ(諦めない)

支え合う関係

# 小学校低学年の学びづくり

ペア(または3人:一人にしない)

きける たよれる 友とつなげる  
できるだけ密着させる(一人にしない)

# 高学年・中学校などの学びづくり

ペア+グループ  
男女混合 市松  
4人グループ

4人グループは

- ・平等な関係
- ・聞きやすい
- ・逃げられない
- ・異性の方が素直に
- ・仲間はずれが出ない

ピタッとつける

# ペア・グループへの教師のかかわり

## グループに任せきりにしないこと

- ◆一番かかわらなければならない子ども
- ◆挫折しそうなグループに
- ◆分かっている子が一人で進めているグループに、みんなの意見を聴くように指示する
- ◆見届ける
- ◆学級をケアの共同体へ

# 授業の構成

＜シンプルに大胆にデザインする＞

①導入 短時間で めあて(課題)の提示(問いをつくる)

②共有の学び(習得・理解)＜グループやペア＞

基礎的・基本的問題、教科書問題の練習など

＜必要に応じ、ここでまとめをする＞

③ジャンプの学び(探究・活用)＜グループやペア＞

教科書よりちょっと高い課題 努力すればわかりそう

教科書よりかなり高い課題 みんなが分からない

④まとめと振り返り

できるだけ自分の言葉で表現させる

# 共有の学び 習得 理解

はじめからグループ（ペア）に

＜個人作業の協同化＞

\* 学びの土台づくり 低中学力層の向上

「訊く 相談 チラ見」ができること

＜一人一人が問題に取り組む＞

＜チラ見をしても、自分の言葉で書きます⇔子供を信じる＞

\* 互恵的学び

説明することは、自分の考えを問い直すこと

＜自分の不理解に気付く・分かってもらうために説明の仕方を考える・新しい解答に気付く…＞

聴き合いの中で、一人残らず内容を理解

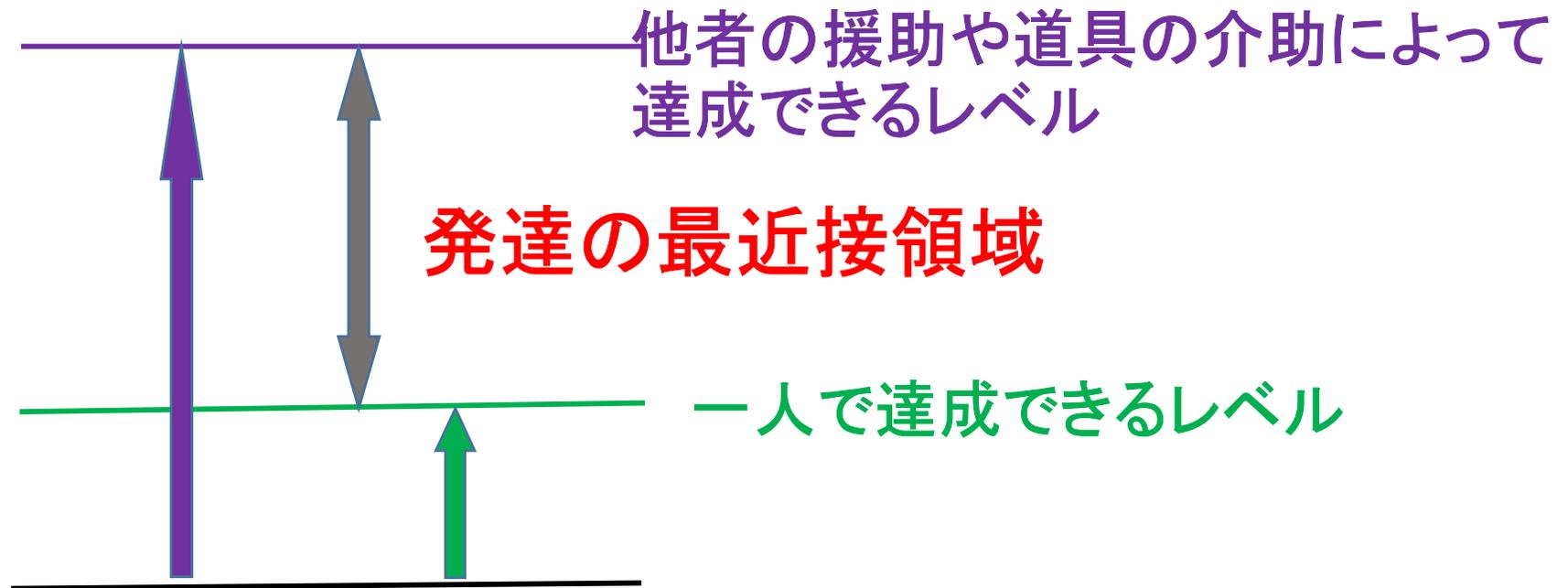
＜解答へのプロセスや考え方を大切にしたい＞

# 質の高い問題(課題)の必要性!

＜ジャンプの学び: 探究・活用＞

## 発達の最近接領域(レフ・ヴィゴツキー)

(ZPD: Zone of Proximal Development)



学び合い(ペア・グループ)による学習の意義

背伸びとジャンプ「より深く学ぶ」、また、発展から基礎・基本(知識や技能など)を学び直したりその定着を促したりもする

# ジャンプの学び 探究・活用

解けそうで解けない問題

(教科書レベルより高い問題)

夢中になる・・・おもしろそう 解いてみたい・・・

多様な思考への挑戦 (背伸びとジャンプ)

プロセスを通して基礎・基本を学ぶ

粘り強さ 人間関係 学ぶ面白さ・・・

(発表会にはしない 教え合いではない)

(グループで一つの答えにまとめない)

「一人一人の学び」

<ぼそぼその声に学びの深さがある>

ジャンプの課題は両者の同時追求を可能に  
高い課題を  協同的に探究

**Quality**質 **Equality** 平等

高い課題こそが子供をつなげる

=「分からないこと」の「探究」

→わかっている子と分からない子が分離しない

→協同の探究（子供のことばでわかる）

→協力ではなく、Careでつながる

# ペア・グループでの探究の学びづくり

## ＜学びの作法＞

自分で考えるのだが

- ・わからないとき、「**ここどうするの**」と訊く
- ・訊かれたら、**わかるまで説明**する
- ・訊かれないのに「**教えてあげる**」とは**言わせない**

## ＜教師の支援＞

**「教えてあげて」と言わない 自立の妨げ 上下関係**

- ・「先生、分かんない」と聞かれても、できるだけ隣に訊くように促し、繰り返す中で訊けるように
  - ・・はじめは写すことも可・・

# グループ・ペアのよさ

## グループ・ペア

**ファミリー** 少しの勇気で・・・訊ける 話せる  
発表の機会が・・・多い  
聴かねばならない関係  
知恵を合わせる 

ああかな！  
こうかな！  
どうしてだろう？  
そういうことか！

## 一斉授業

訊くには、大きな勇気が  
自分の考えを発表できる機会は・・・少ない  
聴いていなくとも

一人になれる  
二人にも、三人にも、四人にもなれる

# コの字のよさ

- ・平等な位置関係になる
- ・互いの意見が**聴きやすい**
- ・発言が **仲間**に向かう 近くの仲間に訊ける
- ・子どもの意見が**つながる**ようになる
- ・見られているので、授業から逃げられない
- ・**表情、息づかい(分からなさ、分かった)**
- ・教師の居方が変わる

## 教卓を寄せる

- ・中央は1m位の間隔をとる(付けることも)
- ・ペアをベースに コンパクトに
- ・左右と後ろを1mは空ける

# 「まとめ」にかえて

安心安全  
な居場所

## 一人一人の学びを保障する だれも独りにしない学びづくり

「分からない『ここどうするの?』」から始まる主体的な学び  
聴き合い(「聴く」「訊く」…)から始まる対話・探究  
教科の本質にせまる題材による探究(真正の学び・ジャンプ)

＜学び合いの場づくりの例・共有したいこと＞

- ①座席 ②4人グループ(小学1・2年生はペア)だれとでも
- ③共有の学びとジャンプの学び(質の高い課題)
- ④教師全員が授業を公開

＜児童の成長を喜び合う教師集団＞

学びは夢をかなえる希望の光